

## 方針の概要

### ■策定の背景・目的

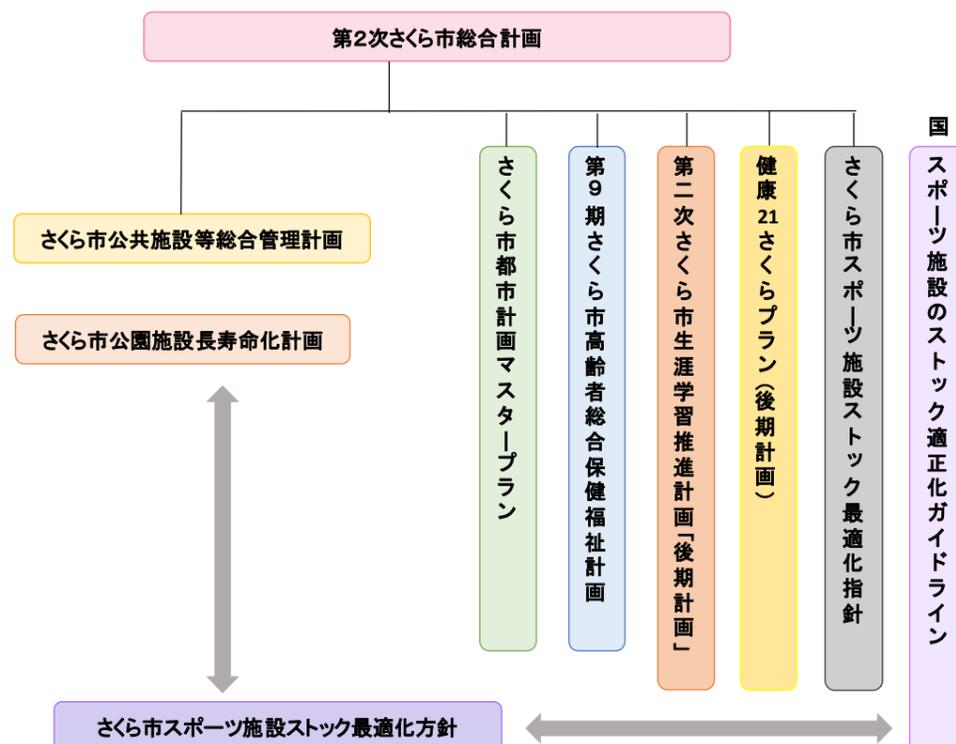
本市では平成29年3月に「さくら市公共施設等総合管理計画」を策定し、令和3年度に見直しを行いました。スポーツ施設については①喜連川地区全体の体育施設の集約化・統合等を総合的に検討②各種体育施設の年間利用者数の向上③既存スポーツ施設、温泉施設、医療福祉施設との複合化、連携強化を図り、地域活性化を図る④スポーツ施設の長寿命化の推進及び管理運営コストの縮減⑤利用実態に応じ、施設統廃合の適正化の方針が示されています。

現在、本市に立地しているスポーツ施設は、合併以前の2町においてそれぞれ整備されたもので、施設の老朽化が進み、維持管理費や施設の更新費用の増大による財政への影響が懸念され、すべての施設を将来にわたって維持・更新していくことは困難であると考えられます。

本方針は、本市を取りまく様々な社会情勢やスポーツ施設の現況把握と分析、評価、課題を整理し、個別施設ごとに機能保持、総量コントロール及び財政負担の平準化を図り、計画的に事業を推進することにより、市民へのスポーツ施設の継続的な提供、スポーツ施設の利便性向上を図ることを目的としています。

### ■方針の位置付け

最上位計画である「第2次さくら市総合計画」をはじめ「さくら市都市計画マスタープラン」等の政策を踏まえ策定しています。また、本方針の策定にあたっては、本市の公共施設等のあり方について基本的な考え方を示す「さくら市公共施設等総合管理計画」をはじめとする各種計画と整合を図りながら、国の「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」を踏まえています。



### ■スポーツ施設最適化指針

スポーツ施設の現状や人口の減少、少子高齢化などの社会情勢に鑑み、また、持続可能な地域社会形成に向けたスポーツ施設の有用性も踏まえ、本市のスポーツ施設の目指すべき姿やその最適化について基本的な考え方を示しています。

#### ①安全なスポーツ施設の継続的な提供

市が保有する施設について計画的な保全を行うことにより、継続的に市民が安心してスポーツに親しむことができる環境を提供します。

#### ②利用状況等を踏まえた集約化等の実施

利用状況における同種の施設との集約化や廃止などにより総量コントロールを行うほか、利用者の少ない施設等については、その要因を分析したうえで、利用しやすい環境の整備を行います。

#### ③スポーツ施設としての最適な規模・設備と多様性に富んだ施設整備

施設整備に当たっては、市民負担の増大を招かないよう、スポーツ施設としての利用目的と必要な機能を精査し、最適

#### ④利便性の向上や地域コミュニティの再生・創造

施設の集約・再整備時には、複合的な機能の充実など、利用者の利便性を高め、また、地域住民の憩いの場や交流の場として地域コミュニティの再生・創造を図ります。

#### ⑤財源確保

維持管理コストの大きな施設については、運営方法の見直し等により維持管理コストの縮減を図るほか、ネーミングライツ・企業広告の導入など、施設を継続的に維持していくために必要な財源の確保に努めます。

### ■対象施設

本方針の対象となるスポーツ施設は以下のとおりです。

#### ●屋内施設

- 1 氏家体育館
- 2 喜連川体育館
- 3 喜連川弓道場
- 4 鷲宿体育館
- 5 河戸体育館
- 6 金鹿体育館
- 7 穂積体育館
- 8 喜連川高校跡地体育館
- 9 喜連川B&G海洋センター

#### ●屋外体育施設

- 1 喜連川運動場テニスコート
- 2 喜連川高校跡地第1グラウンド
- 3 SAKURAグリーンフィールド
- 4 鬼怒川運動公園サッカー場
- 5 鬼怒川運動公園グラウンドゴルフ場
- 6 総合公園さくらスタジアム
- 7 総合公園野球場
- 8 総合公園テニスコート
- 9 総合公園バスケットボールコート
- 10 総合公園スポーツウォール
- 11 総合公園ゲートボール場
- 12 菖蒲沢公園多目的広場
- 13 兎田河原グラウンドゴルフ場

\* 令和7年3月31日付けで廃止となった以下の施設は対象外ですが、方針の策定にあたり各種評価を実施しました。

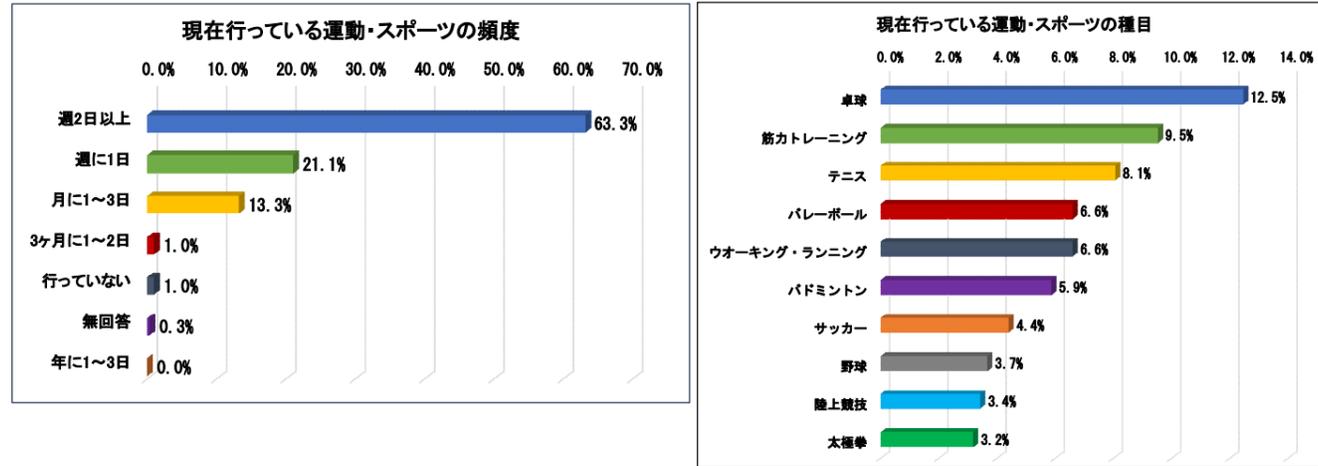
- ・喜連川運動場サッカー場
- ・総合公園プール
- ・菖蒲沢公園テニスコート

# スポーツを取りまく現状

## ■スポーツ施設活動の現況

令和7年1～2月に氏家体育館、喜連川体育館、さくらスタジアムにおいて実施したアンケートの回答結果（302名）によると、スポーツ活動の状況で最も多い回答が「週2日以上」で63.3%、次いで「週に1日」が21.1%となっており、約84%が週1回以上運動・スポーツ活動を行っています。

また、現在行っている運動・スポーツ種目としては「卓球」が最も多く、次いで「筋力トレーニング」「バレーボール」「バドミントン」など室内競技で手軽に楽しめる運動・スポーツが上位を占めています。

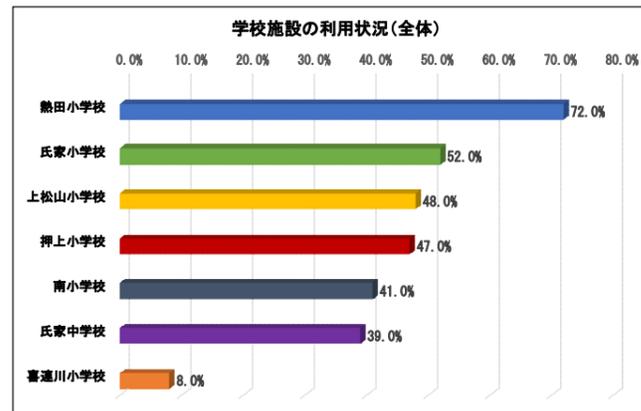


## ■学校施設の利用状況（令和4年度）

小中学校の体育館は学校開放事業として、土、日、夜間開放していますが、喜連川小学校を除き、全体の稼働率は約40%以上で、熱田小学校は72%となっています。

市民のスポーツ活動の場としてこれからも一層の利用促進を図っていくことが重要です。

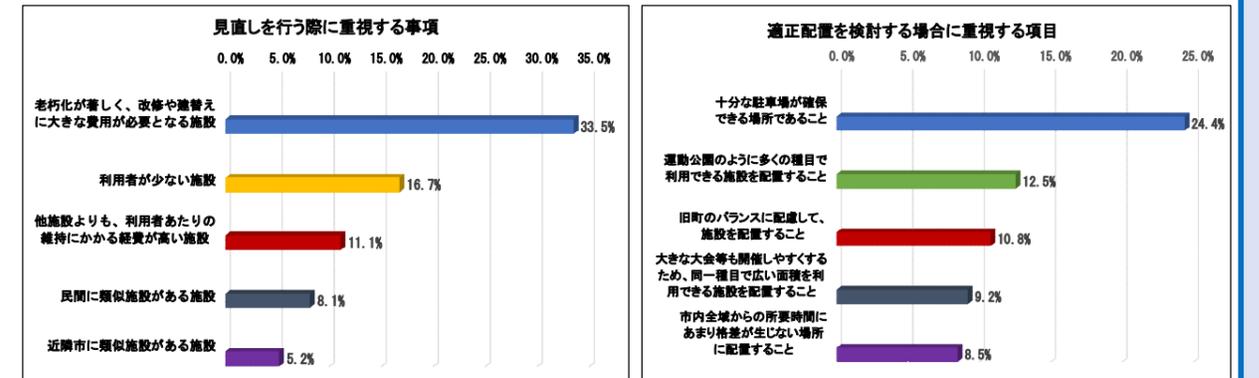
\* 喜連川小学校は、屋根・外壁工事（工期約6か月間）のため利用なし



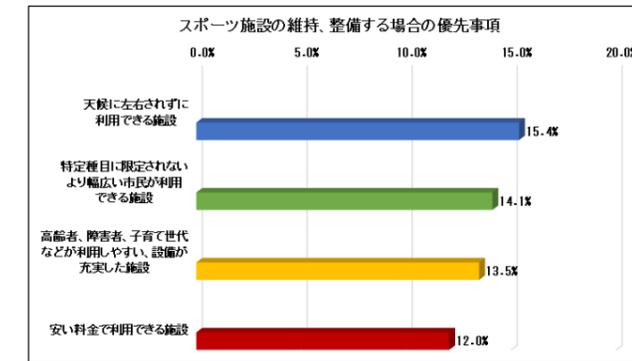
## ■スポーツ施設に対する市民意見

スポーツ施設のサービスを維持していくために施設の見直しを行う場合に重視する項目で最も多いのは「老朽化が著しく、改修や建替えに多額の費用が必要となる施設」次いで「利用者が少ない施設」「利用者1人当たりの維持費が多い施設」となっています。

また、スポーツ施設の適正配置を検討する場合に重視すべき事項で最も多かった意見は「十分な駐車場が確保できる場所」次いで「運動公園のように多くの種目で利用できる施設を配置すること」「旧町のバランスに配慮した施設の配置」「大きな大会が開催しやすくなる同一種目で広い面積を利用できる施設」となっています。



さらに、今後どのような施設を優先的に維持、整備していくかを検討する場合に重視する事項で最も多かった意見は「天候に左右されず利用できる施設」次いで「特定種目に限定されず幅広く利用できる施設」「高齢者、障がい者、子育て世代が利用しやすい設備が充実した施設」「安い料金で利用できる施設」となっています。



## ■課題の整理

### ①社会情勢への対応

少子高齢化や人口減少の中でスポーツ施設の利用者減少、スポーツ施設の維持補修費の増大が見込まれることから、スポーツ施設の適正配置、規模、施設内容を検討することが必要です。

### ②スポーツ施設の適正化

市民の多くが手軽に楽しめるスポーツ活動を行っており、スポーツ施設に加え、学校の施設も利用されています。  
市民がいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるようスポーツ施設を継続的に利用できるよう適正に配置していくことが必要です。

### ③施設の安全性の確保

体育館の多くが建築後30年以上経過し、特に耐震補強工事が未済の施設もあり、利用者の安全面から、早急な対応が求められています。

### ④利用者ニーズへの対応

老朽化した施設の更新に加え、多様化する利用者ニーズに対応することが求められています。  
バリアフリー化やトイレの改修等の要望の他、多目的に利用できる施設の要望に加え、雨天時に利用できる体育館の充実が求められています。

# 各スポーツ施設の評価と方向性

施設名称	区分	1次評価（定量的情報）				2次評価（定性的情報）		方向性	内容	
		安全性、機能性、利用者数、稼働率、税負担額、耐震性等を現状実績をもとに評価				定量的情報を補足する施設の立地状況など各種定性的な情報				
		安全性 機能性	経済性	耐震性	施設の 方向性	政策 優先度	基本方針			
屋内施設	氏家体育館	建築物	良	良	有	維持	高い	機能保持	長寿命化	市内で最も利用が多く、アリーナ、格技場、の稼働率も高く財源コストも良い。災害時の避難場所に指定されている。計画的に修繕を行い長寿命化を図る。
	喜連川体育館	建築物	劣	良	無	改善	低い	総量コントロール	集約化	土砂災害警戒区域内に位置し、老朽化、耐震補強工事が必要なため集約化を図る。
	喜連川弓道場	建築物	劣	劣	有	改廃	低い	総量コントロール	集約化	土砂災害警戒区域に隣接し、利用者が少なく、借地料など維持管理費の負担が大きいことから同種施設への集約化を図ります。
	鷺宿体育館	建築物	劣	劣	有	改廃	低い	総量コントロール	集約化	洪水浸水想定区域内に位置していますが利用頻度が高く屋内でフットサルができる施設のため新設施設への集約化を図ります。
	河戸体育館	建築物	劣	劣	無	改廃	低い	総量コントロール	集約化	耐震補強工事が必要な施設で、老朽化が進み、利用者数が少ないことから、新設施設への集約化を図ります。
	金鹿体育館	建築物	劣	劣	有	改廃	低い	総量コントロール	集約化	老朽化が進み、利用者数もやや少ないことから新設施設への集約化を図ります。
	穂積体育館	建築物	劣	劣	無	改廃	低い	総量コントロール	集約化	耐補強工事が必要な施設で、老朽化が進み、利用者数も少ないことから新設施設への集約化を図ります。
	喜連川高校跡地体育館	建築物	良	劣	無	維持	高い	機能保持	機能改修	耐震補強工事を実施し、将来は様々な種目が行える施設にするなど、機能改修を図ります。
	喜連川B&G海洋センター	建築物	良	良	有	維持	高い	機能保持	機能改修	市内で唯一のプール施設で代替施設がなく、大規模改修済施設のため適正な維持管理を行い、機能改修を図ります。
屋外施設	喜連川運動場サッカー場	非建築物	劣	劣	—	改廃	低い	総量コントロール		令和6年度をもって廃止。
	喜連川運動場テニスコート	非建築物	劣	劣	—	改善	低い	総量コントロール	集約化	老朽化が進み利用者数が少ないものの、喜連川地区のテニス教室で利用されていることから同種施設と集約化を図ります。
	喜連川高校跡地第1グラウンド	非建築物	良	劣	—	維持	高い	機能保持	機能改修	市内で唯一の硬式野球場で、多目的利用も期待できるため、今後も適正な維持管理を行います。
	SAKURAグリーンフィールド	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	長寿命化	夜間照明や人工芝が整備され多くの市民に利用されているため、今後も適正な維持管理を行い、長寿命化を図ります。
	鬼怒川運動公園サッカー場	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	長寿命化	公式大会にも利用され、利用者数が多いことから、適正な維持管理を行い長寿命化を図ります。
	鬼怒川運動公園グラウンドゴルフ場	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	長寿命化	利用者が多く、維持管理コストが軽微なことから、適正な維持管理を行い長寿命化を図ります。
	総合運動公園さくらスタジアム	非建築物	良	劣	有	維持	高い	機能保持	長寿命化	夜間照明、全天候型舗装のトラックを備えた市内で唯一の施設であり、陸上競技やサッカーの各種大会等様々な用途に利用されているため、適正な維持管理を行い長寿命化を図ります。
	総合公園野球場	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	機能改修	夜間照明が整備され、軟式野球やソフトボールに多くの市民に利用されているため、今後も適正な維持管理を行い機能改修を図ります。
	総合公園テニスコート	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	機能改修	夜間照明が整備され、利用者数も多く、利用頻度も高い施設のため、適正な維持管理を行い機能改修を図ります。
	総合公園プール	建築物 非建築物	劣	劣	—	改廃	低い	総量コントロール		令和6年度をもって廃止。
	総合公園バスケットボールコート	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	機能改修	市内で唯一の屋外バスケットボールコートで、維持管理費が軽微なことから、適正な維持管理を行い機能改修を図ります。
	総合公園スポーツウォール	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	機能改修	様々な壁打ちができる市内唯一の施設で、利用者数も多く、維持管理コストが軽微なことから、適正な維持管理を行い機能改修を図ります。
総合公園ゲートボール場	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	機能改修	維持管理コストが軽微なことから、適正な維持管理を行い機能改修を図ります。	
菖蒲沢公園多目的広場	非建築物	良	劣	—	維持	高い	機能保持	機能改修	夜間照明が設置され、軟式野球、ソフトボールのほか多目的利用が期待できる施設ため、適正な維持管理を行い機能改修を図ります。	
菖蒲沢公園テニスコート	非建築物	劣	劣	—	改廃	低い	総量コントロール		令和6年度をもって廃止。	
兎田河原グラウンドゴルフ場	非建築物	良	良	—	維持	高い	機能保持	長寿命化	維持管理コストが軽微なことから、適正な維持管理を行い長寿命化を図ります。	